

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第58回部会）会議録

日 時：令和7年11月13日（木）午後7時～午後8時35分

場 所：東淀川区役所出張所3階会議室

【議事】

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議題

（1）まちづくりに関する情報提供

- ・柴島浄水場等の開発用地にかかる都市計画変更手続きについて
- ・東淀川区での地域防災の取り組みについて

（2）地域での活動報告及び意見交換

4 その他

5 閉会

《配付資料》

- ・議事次第
- ・第57回 まちづくり通信
- ・【資料1】まちづくりに関する情報関連資料
- ・【資料2】地域からの報告資料
- ・【資料3】防災・まちづくり講演会関連資料

1. 開会

2. 部会長あいさつ

（部会長）

- ・2026年4月に向けて、大阪府において、「住まうビジョン・大阪」の改定作業にあたられている。人に優しい、ふだん暮らしのまちづくり、みんなが参加しやすいまちづくりをめざして進めていく視点を、ビジョンに求めていきたい。
- ・新大阪駅南口のまちづくりでは、多くの企業が参加する模様。我々も3月の協議会に向け、多くの企業に参加してもらえるよう、努力しているところ。

3. 議題

（1）まちづくりに関する情報提供

（事務局）

- ・本日は、柴島浄水場等の開発用地にかかる都市計画変更手続きについて、大阪市 計画調整局から説明していただく。

（大阪市計画調整局）

- ・柴島浄水場等の開発用地について、淡路駅エリアの将来像にあった用途地域に変更するとともに、地区計画を決定する（資料1-1-1）。現況、柴島浄水場のあるエリアは、第一種住居地域になっている。機能集約後、浄水場の機能が引き続き残るエリア（浄水場機能集約用地）は、他の浄水場と同様の準工業地域に変更する。浄水場機能がなくなって開発が可能となるエリア（将来開発用地）は、商業地域に変更し、将来開発を募集したときに多様な機能を導入できるよう、制限を緩和していく。具体的には、現状容積率200%または300%となっているところを、400%へ変更する。これは阪急淡路駅周辺と同じ

容積率に合わせている。準工業地域の建蔽率は60%となり、圧迫感が無いように配慮していく。

- ・第一種住居地域から商業地域に用途地域を変更することで、様々な用途のものが建てられる一方、のぞまないもの、誘導したくないものも含まれてしまうので、用途地域の変更とあわせて地区計画を決定していく。今回は、地区計画の方針を定め、今後のまちづくりの具体化における目標等を明確化する。今後、柴島浄水場の機能集約や各種プロジェクトの進捗に応じて、地区整備計画を定める予定。
- ・11月13日まで都市計画の案の縦覧期間だが、地域の皆さんからのご意見を反映して都市計画案を作成してきたところである。今後、大阪市都市計画審議会において審議され、可決されれば、知事との協議を経て、告示予定。

(質疑応答)

(部会員)

- ・「400／80」というのは、「容積率／建蔽率」のことか。14.6haの最大80%が建てられるということか。実際には、どんな高さのものが建てられるのか。

(大阪市計画調整局)

- ・建蔽率については概ねそのとおり。高さについては、敷地の面積にもよるほか、日影の関係や航空法の規制がかかるエリアなので、容積率や建蔽率だけですべてが決まるわけではない。

(久名誉教授)

- ・商業地域の容積率は、大阪市全体の商業地域の中で最も小さい容積率が400%となっているので、選んだのでは。

(大阪市計画調整局)

- ・阪急淡路駅周辺との連続性も踏まえつつ、大阪市全体の指定基準において、商業地域として最も小さい容積率である400%をあてはめている。

(事務局)

- ・航空法で、このあたりの高さ制限が約150mとなっている。

(大阪市計画調整局)

- ・実際には、開発事業としての事業採算性も関係する。現状の淡路駅には100mを超える建物は建っていない。

(部会員)

- ・歌島豊里線に歩道橋を整備するのはありえるのか。

(大阪市計画調整局)

- ・整備するかどうかは別の話として、歩道橋は道路施設なので、整備することは可能。

(部会員)

- ・歩道橋がそれぞれの商業施設につながることも、可能性としてあるのか。

(大阪市計画調整局)

- ・今後の開発の具体化に伴う検討次第になる。

(部会員)

- ・動線上に、施設のテラスなど、エントリーできるものがあると面白い。

(部会員)

- ・ダブル踏切のあたりは、現在は工事用仮囲いだからということもあるが、淡路駅から新しくできるエリアへの入口というには、どう人が動くのかイメージできない。2階で道路を越えてつながると動線がイメージしやすい。

(部会員)

- ・駅なかから直接アプローチできるとおもしろい。高架下を歩いていくうちに、気が付くと新しいエリアについているとなればいい。

(久名誉教授)

- ・箕面市では、屋根付きの歩道橋を2億円かけて整備した。2つのエリアを歩道橋でつないでいるが、歩いている人に歩道橋と感じさせないようにした。

(部会員)

- ・頑張ればできる、ということか。ここは頑張りどころ。まさに結節点だ。

(部会員)

- ・駅が3つあるのも魅力だ。どこからでも入れる。

(事務局)

- ・続いて、東淀川区での地域防災の取り組みについて、東淀川区役所 地域課 安全まちづくりグループから説明してもらう。

(東淀川区役所)

- ・南海トラフ地震については、100～150年といった周期的に発生している。前回の南海・東南海地震から70年、東海地震から170年以上が経過しており、発生確率も上がってい、いつ地震が起こってもおかしくないので注意する必要がある。
- ・河川氾濫時の浸水の深さの想定や浸水継続想定時間について、例えば、淀川氾濫時には東淀川区全域で2～3m（最大で8m）の浸水被害となり、水が1週間以上ひかないエリアもある。
- ・東淀川区では、平成24年から26年にかけて地域でのワークショップを実施し、小学校区ごとに「地域防災計画」を策定している。避難経路については、策定時からだいぶ経つのでまちの変化に応じて見直す必要がある。
- ・最近の災害では、高齢者の被害者が多かったので、避難勧告・避難指示の一本化、個別避難計画の作成等、令和3年に災害対策基本法の改正がなされた。
- ・避難といえば、小学校をイメージするが、小中学校や公民館に行くことだけが避難ではない。難を避けるための行動が必要で、自宅が安全な場合には在宅避難という方法もある。
- ・阪神・淡路大震災の際、幅員4m未満の道路ではほとんど通れず、6～8mであっても約33%が歩行者も通れない状況だった。木造住宅が多いエリアは特に注意が必要。
- ・災害発生時、町会ごとの一次避難場所は、安否確認を行ったりする本部となる。日頃から、防災学習会や防災訓練の実施、必要に応じた地域別防災計画の更新が重要である。

(質疑応答)

(部会長)

- ・大阪府の訓練はどのように行っているのか。

(東淀川区役所)

- ・情報発信を主とする訓練で、東淀川区では、SNS、全区内の防災スピーカーで実施した。

(部会長)

- ・SNSとは具体的には。

(東淀川区役所)

- ・大阪市からのLINEや、東淀川区からのX（旧Twitter）で、フォローや登録をしている人に届くまた、Jアラートではスマホ等が鳴ったと思う。

(部会員)

- ・ライフラインの被害想定について、上水道は100%使えなくなつて、復旧にも時間がかかることがあるが、下水道はどうか。水道は給水車が来てくれると思うが、トイレが心配。

(東淀川区役所)

- ・上下水とも地中に埋まつてるので、壊れた場合には相当時間がかかると思う。能登の地震でも、復旧にはかなりの時間がかかつた。

(久名誉教授)

- ・東日本大震災では、津波で下水処理場自体が被害を受けた。

(2) 地域での活動報告及び意見交換

(事務局)

- ・続いて、啓発地域のワークショップについて、部会員から説明していただく。

(啓発地域 部会員)

- ・10月17日に「第1回 未来会議」というワークショップを開催した。最初は、5月の阪急洛西口駅の高架下の利活用を視察した結果について話し合うつもりだったが、柴島浄水場の開発用地や新大阪駅周辺のプロジェクトが進んできていること、東淀川区の一番端にある啓発地域では、ほおっておくと未利用地にはワンルームしか建たないこと、隣の西中島では小学校がなくなつてしまつたことなどを踏まえると、今、考えないといけないとの思いから、住みやすいまちになるためにフリートークをしてもらった。高校生が3人来てくれたこともあり、若い目線での話が呼び水になり、たくさんの意見が出た。
- ・みんなが集まれる、過ごしやすい場所が欲しいという意見や、大きな公園が欲しいといった意見が特に多かった。2回目（12月12日に開催予定）は、なぜそう思うのか、why?やwhat?を深堀りしたり、昔は良かったというけれど何が良かったのかを思い出すような内容にしたい。ほおっておくとゴーストタウンになつてしまつるので、面白いまちにしていきたい。3月までにあと2回位開催して、まちの方針としてとりまとめ、開発のヒントになればと考えている。また、高架下は長いので、それぞれの駅やエリア全体で役割分担をしながら、他の地域とも共有していきたい。

(質疑応答)

(部会長)

- ・10代の参加者がいると面白くなる。うちの地域でも学生さんや、PTAや保育所の関係者に入ってもらったりしている。

(部会員)

- ・高校生はどのような経緯で参加したのか。

(啓発地域 部会員)

- ・1人は参加者のお子さんで、そのお友達を連れてきてくれた。期末テストが終わってから、クリスマス前でもあり、お菓子を用意して、迎えたい。参加者の中に、むくのき学園や柴島高校とつながっている人がいるので、働きかけようとしている。若い人の意見を聞きたい。

(久名誉教授)

- ・北千里高校では、探求の時間のなかで、まちづくりについて調べている。

(啓発地域 部会員)

- ・むくのき学園の9年生に、防災の話をしに行くことはありますが、防災の話しかできなかつた。まちの未来のことばは、10~15年先にも生きている子どもたちのために考えていきたいという思いを持っている。

(下新庄地域 部会員)

- ・アクションプランを作り、スローガンを作ろう、ということで、地域活動（カレー屋さん）に来た子ども達に「しもしんじょうってどんなところ？」というアンケートをとった。下新庄地域には、既に「明るいまち下新庄」というスローガンがあるので、サブスローガンという位置づけだが、子ども達の意見をもとにしながら、候補を考え、最終的に5案に絞り、地活協のメンバーのグループLINEで投票（複数回答可）を行っているところである。上位3案程度を町長会議で示して、最終的に決定する予定。次回の部会では報告できると思う。
- ・今後、スローガンを含めたアクションプラン、子ども達の手書きの意見、下新庄地域の活動がわかる写真など（シート状のもの）を、駅の工事現場の壁面に貼ってもらい、活動をアピールしたいと考えている。一度、阪急電車とは話をしている。年間行事など、広報紙やSNSでも発信しているが、なかなか浸透しないので、道行く人、特に若いパパ・ママにアピールしたい。

(部会長)

- ・シンボリックで、いい取り組みだ。

(事務局)

- ・久先生、全体を通して何かありますか。

(久名誉教授)

- ・今日は大きく2つのお話があつたが、1つにまとめるとすると、「日常はずつと続かない」ということ。災害についてはおわかりだと思うが、都市計画も実は同じで、ある日突然自宅の近所にパチンコ屋が建つ、というのはよくあるトラブル。近所に何が建つかは、用途地域を調べれば分かる。最初から知つて

いたらよいが、普段は気にしていないので、今の状況がずっと続くと思い込んでいる。情報をちゃんと入手して、自分が住んでいるまちのことを理解することが重要。

- ・防災に関するデータのお話をたくさん聞いたが、もう一つ、国土地理院のホームページ※で「土地の成り立ち」を調べてみてほしい。地形分類（自然地形）を見ると、住んでいる地域がどのようにできあがってきたかが分かる。神崎川や安威川はつけかえたので旧河道（青色）の土地は注意する必要がある。このあたりは、もともとは海の底で、その後は砂丘や砂州だった。「淡路」とは、菅原道真が大きな砂地を淡路島だと勘違いしたのが由来。家を選ぶときには、このような情報を知ってから選ぶ必要がある。

※ <https://maps.gsi.go.jp/help/intro/looklist/4-naritachi.html>

- ・昭和42年の北摂地域の大水害ではかなりの被害が出た。最近、安威川ダムが完成したので、今度はダムが水をとめてくれるが、このあたりも当時被害が出ている。災害から50年以上が経ち、記憶は薄れ、経験した人も少なくなっている。過去の歴史をもう一度勉強したり、まちの長老クラスに語ってもらい、経験や知恵を引き出すなど、データ+経験が大切である。

4. その他

- ・11月24日に「東淀川区創設100周年記念事業 第51回東淀川区民まつり」を開催。
- ・12月6日に「東淀川区創設100周年記念 防災・まちづくり講演会」を開催。久名誉教授からは、「地活協はこんな活動をしています」といったお話をもしていただく予定。

5.閉会

以上